

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100153
法人名	日本ケアシステム株式会社
事業所名	グループホームよろこび
所在地	松山市堀江町甲2082-1
自己評価作成日	平成28年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が近く、自然に恵まれた場所にあるグループホームです。ゆったりとした暮らしの中でのんびりを感じられるように援助を行っています。季節の外出行事を多く取り入れ入居者様が季節感を味わってもらえるように努力しています。職員は入居者様の表情や状態を観察し不安の解消や休息が取れるように心がけ介護を行うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関前には鉢花を飾り、テーブルにはあじさい等を生けていた。午前10時半から一時間、併設ショートステイの利用者も来て一緒に体操やレクリエーションを行っている。姿勢保持のために足置き台を置いたり、足を高くしたりして休んでいる利用者の様子もみられた。
●月2回の外出に力を入れて取り組んでいる。利用者の希望と利用しやすさ等を踏まえて行き先を決めており、吉海のバラ園や西条の長福寺等にも出かけている。
●利用者や家族は、事業所で最期まで過ごすことを希望する方が多い。家族には看取り支援時には「居室で泊まることもできる」ことを話している。この一年間では3名の利用者の看取りを支援しており、家族との関係性等を踏まえて、最期を家族が立ち会えるよう支援した事例がある。又、「食べることが好き」な方には、アイスクリームを口にするよう支援した。状態を踏まえ清拭して、清潔保持に気を付けて支援した事例もある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームよろこび

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

金澤 大輔

評価完了日

平成 28年 6月 13日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			笑顔という介護理念のもと、常に入居者様に笑顔で接す るように心掛けている。	
			(外部評価)	
			法人理念「笑顔」を事業所理念としても掲げており、掲示して 職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			町内会に加入しており、回覧板を入居者様と一緒に回しに 行ったりしている。また、納涼祭を実施し地域の方に気軽に 参加していただけるように声掛けや案内を配布している。今 年度より週2回移動スーパーが来ており、近所の方などにも 声掛けを行っている。	
			(外部評価)	
			回覧板をみて、地区が主催する青空市に出かけた。公民館 での作品展には、利用者の俳句作品を出展して特賞をも らった。4月から移動スーパーが来るようになり、地域の方達 にもポスティングして知らせた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議や回覧板を通して地域の情報を得るようにし ている。入居者様の身体状況を考慮しながら地域行事に参 加できるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			運営推進会議に参加していただいている地域駐在所やボ ランティアの方、他事業所の職員にサービスに対する意見を 聴衆し、サービスの質の向上に努めている。 運営推進会議の議事録を家族様の送付している。	
			(外部評価)	
			会議は、地区の他グループホームの方や地域ボランティア の方、民生委員、駐在所の方等の参加があり、奇数月の最 終週の平日、午後2時からおよそ30分～1時間程度行ってい る。利用状況や活動内容は、写真を見せながら報告して意 見交換を行っている。家族への案内は行っていない。	さらに、利用者や家族が参加できるような日時や内容に工夫 してほしい。又、会議の機会を活かして地域とのネットワー ク作りに取り組んではどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価)	
			運営推進会議に市町村職員に参加していただき、現在注 意すべき事項について指導をいただいている。また、不明な 点があれば電話にて質問相談したりしている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時に、感染症対策等の情報提供がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			日中はフローアに必ず職員がいるようにし、夜間以外は施 錠しないようにしている。身体拘束に関して職員間で共通認 識が持てるように努力している。	
			(外部評価)	
			月に1回、併設事業所合同で身体拘束委員会が開催されて おり、職員も出席している。話し合われた内容は職員にも周 知している。ベッドからの立ち上がり時が不安定な利用者には、 足元にセンサーマットや畳を敷いて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			管理者は心にゆとりがないと虐待に繋がると考えており、業務を優先するのではなく入居者様への対応をゆとりをもった心で接するように職員会議等で話しをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			管理者は成年後見制度や権利擁護について学んでいるが職員に対して勉強会などは行えていない状況である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時に重要事項説明書に沿ってゆっくり説明し、専門用語などは分かり易い言葉に置き換えたり、事例などを交えて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族様が面会に来られた際に現状報告する機会を設けている。また、家族様から要望や意見をいただけるように意見箱を設置している。 内服薬や身体状況が変化した場合家族様に連絡報告するようにしている。	
			(外部評価)	
			毎月、書面に写真を添付して、個別に活動や健康状態を報告している。家族来訪時には利用者の近況を報告しており、家族は居室で利用者と過ごすことが多い。現在、意見箱の利用はない。27年度は納涼祭やバレンタインデーの行事と家族会を併せて行い、家族との親睦を深めた。	「任せます」と言うような家族が多く、運営に関する意見については少ないようだが、今後は、家族が事業所の活動に参加できるような場面や機会作りに工夫し、家族と一緒に利用者を支える取り組みをすすめてほしい。

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1回職員会議を開き職員の意見を聞くようにしている。 また事前に議題を各職員にメールし職員会議までに考察する時間を設けている。	
			(外部評価)	
		職員会議時には、利用者から聞き取った情報等をもとに外出先を決めている。法人で、年2回職員の親睦会が催されており、又、普段から職員同士の親睦もあり、チームワークにつながっている。夜勤等、不安があれば24時間いつでも管理者がサポートしてくれる体制があり、職員の安心感につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			頻回に人事担当者が管理者や職員から業務の内容に関して意見を聞く機会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			管理者は研修に関する書類に目を通し各職員に適した研修への参加を促している。 また介護情報誌を定期購読し全職員がスキルアップできるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			運営推進会議で交流のある他事業所の管理者や職員と意見交換などを行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に家族様から本人の要望を聞き取り希望に沿った生活ができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族様と本人様に見学していただき、大まかな1 日の生活の流れを説明している。協力病院や緊急時の対応 を説明し不安や不明な点を解消できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 入居前の面接時に在宅でどのような生活をしていたか、趣 味等を聞き入居後の生活や介護に活かせるように努めてい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 職員は入居者様一人ひとりの特徴を活かすように努力し入 居者様の気分や状態を観察しながら共に生活して行くように 努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が面会に来られた際には生活状況を話すようにし ている。また問題等があった場合は家族様と一緒に話し合う 機会を設け解決していけるように努めている。遠方に住まわ れている家族様にはメールで状況報告を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) グループホームで外出する際には入居者様の馴染みの場 所に出かける事が多い。また文通をされている入居者様もい らっしゃる。 (外部評価) 馴染みのある神社やお寺に出かけられるよう支援している。 入居間もない利用者で、帰りたい気持ちが強い方があれ ば、自宅近くをドライブする等して支援しており、本人は徐々 に落ち着かれるようだ。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	(自己評価)	
			職員が入居者様間の関係を把握するよに努力している。 手伝いや外出・行事など入居者様が共通で過ご支え合う機 会ができるように努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努めて いる	(自己評価)	
			退居後も家族様が来所してくださり、介護相談などすること もある。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	(自己評価)	
			家族様との話から情報を収集したり、日常の会話や表情 などから気持ちを汲み取るように努力している。	
			(外部評価)	
			入居時にフェースシートを作成して、これまでの既往歴や暮 らしぶりを整理している。日々の利用者の意向は職員が 日々聞き取り、申し送りノートや介護記録に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	(自己評価)	
			本人や家族様から生活歴や馴染みの過ごし方を聞き取り 日常生活に活かせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			その日の身体状況に合わせて過ごしていただくように努め ている。 テレビ鑑賞時には足を伸ばして楽な姿勢を取っていただい たり、個々が午後から1～2時間程度居室でゆっくり過ごして いただく時間を設けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画作成時には本人様・家族様・主治医・看護師・職員が情報収集し、介護計画に反映できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画の支援内容を介護記録に青色で記入し、1ヶ月ごとに「経過記録」としてまとめており、3ヶ月毎の見直しにつなげている。利用者の健康管理や役割等を計画に採り入れていた。さらに、利用者の希望等も聞きながら、生活の場を地域に広げていけるような計画についても、工夫してはどうだろうか。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			併設型の特色を活かしショートと合同でレクリエーションなどを行っている。また、家族様が面会に来られた際には、居室でゆっくり過ごしていただくように努めている。また外出や外泊など柔軟に対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会議を活かし駐在所・地域ボランティアの方から情報をいただき、地域行事(花火鑑賞・青空市・作品展)へ参加できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			協力病院が在宅療養支援病院の為24時間の対応が可能である事を入居時に説明している。併設型で他部署の往診もある為土日祝日以外医師が施設に往診に来るようになっていく為状態が変化した場合往診依頼も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			週1回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくれている。又、いつでも相談でき、駆けつけてくれる。入居以前からのかかりつけ医が入居後も往診で診てくれることで、事業所への入居を決めたような利用者もいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時に面会に行き情報収集したり、受け入れ時の注意点など考慮している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			終末期の対応については、入居時に家族様に説明をしている。家族様の意向を主治医に伝え意向に沿った対応を行なえるように努めている。	
			(外部評価)	
			利用者や家族は、事業所で最期まで過ごすことを希望する方が多い。家族には看取り支援時には「居室で泊まることもできる」ことを話している。この一年間では3名の利用者の看取りを支援しており、家族との関係性等を踏まえて、最期を家族が立ち会えるよう支援した事例がある。又、「食べることが好き」な方には、アイスクリームを口にできるように支援した。状態を踏まえ清拭して、清潔保持に気を付けて支援した事例もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 協力病院・訪問看護ステーションが24時間バックアップ体制が取れている。また、急変時の対処法を介護職員室に掲示しており、直ぐ対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回各部署持ち回りで避難訓練を行っている。有事の際他部署と連携し対処できるように努力している。また緊急時の連絡網は作成している。 (外部評価) 新たに、風水害対応マニュアルを作成した。事業所が出火元を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議時には、「法人に地域の方達の食糧も少し備蓄がある」ことを話している。海が近いという立地条件でもあり、いざという時、地域と協力し合えるように、地域の自主防災訓練への参加等、地域の方達と一緒に避難訓練を行うような取り組みもすすめてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の立場に立った介護が行なえるように配慮している。特に排泄など対応職員間の伝達の際には注意している。 (外部評価) 自分で洋服を選んで着替えする方には、自分の思い通りにしてもらい、あとで職員がサポートしており、そのような取り組みが本人の意欲向上につながっている。おやつの時間に声をかけると「今はしんどい」と言われるような場合には、時間をずらして支援している。誕生日には、おやつをケーキにしてお祝いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の会話の中で入居者様の希望などを聞き取り行事に活かすようにしている。また、介護職員に入居者様の状態を観察し自己決定できるよう援助に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			入居者様の状態を考慮し本人の希望に丁寧に対応するよ うに心掛け業務優先にならないように管理者は話しをしてい る。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)	
			入居者様が服を選ぶ際相談に乗ったり寝癖等をさりげなく 直すようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			食事中ゆっくりとしたペースで食事ができるに努めている。 食事中に話しをしながら楽しく食事ができるように努力してい る。	
			(外部評価)	
			法人施設と同じ献立で食材が届き、事業所で調理専門職員 が食事を作っている。普段は、軽い食器を使用しているが、 ひな祭りや端午の節句、七夕の際には松花堂弁当のように して工夫している。職員は、テレビやレクリエーション等の話 題で会話しながら、同じテーブルで同じ物を食べながらサ ポートしている。全介助で食欲が落ちている利用者には、歌 が好きなことを踏まえて「春が来た」の歌と一緒に歌い、口が 開いたところで食事を口に入れて介助していた。	さらに、利用者が主体の食事支援について工夫できることは ないか、話し合ってみてはどうだろうか。利用者が食事一連 の流れの中で関わるような場面づくりに工夫して はどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			一人ひとり食事摂取量や水分量を記録把握し職員間で共 有している。また摂取量が少なくなった場合質を高めるように 努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後口腔ケアを行い口腔清潔に努めている。年2回訪 問歯科診療にて健康チェックを行い必要に応じて治療を行 なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			出来るだけトイレで排泄できるように努めている。排泄チェック表を分かり易いようにし、各職員が排泄チェック表をもとにして声掛けしたり動作や仕草を観察し、排泄援助を行うようにしている。	
			(外部評価)	
			トイレのドアには「トイレ」と表示している。排泄チェック表をもとにしてトイレで排泄できるような支援に取り組んでいる。夜間放尿のある利用者には、職員が後始末している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分摂取量1日1500ml摂取できるように援助している。朝食時に牛乳を飲用していただいたり、健康チェック時に訪問看護師に助言をいただいたりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入居者様の体調を考慮しながら入浴援助を行っている。肩こりなどを訴える場合など入浴剤を使用したり時折伊予柑風呂などを行い少しでも楽しんで入浴してもらえるよう努めている。	
			(外部評価)	
			6月から職員の負担軽減のために、利用者の入浴回数を週3回から2回に変更した。補助具等を整備して重度の利用者も、職員の介助で湯船に入り温まれるよう支援している。さらに、利用者の入浴の習慣や好みについて話し合い、支援に採り入れてはどうか。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの表情や仕草を観察し休息時間を設けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの内服薬説明書をファイルし副作用や効果を確認し緊急時に持ち出せるようにしている。配薬時にはチェック表を作成しまた服薬時には必ず2人の目で確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ等役割がほぼ確定しているが、心身の状態などを考慮し無理強いしないように管理者は話しをしている。HDDやDVDに録画し入居者様が好みの番組を見れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月2回外出行事を行っている。入居者様の希望などを取り入れるように努めている。入居者様の馴染みの神社への初詣は毎年の恒例行事となっている。 (外部評価) 月2回の外出に力を入れて取り組んでいる。利用者の希望と利用しやすさ等を踏まえて行き先を決めており、吉海のバラ園や西条の長福寺等にも出かけている。重度の利用者は、月に1回程度ひなたぼっこできるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時に買い物を行う事もあるが今年度より移動スーパーが週2回きており、入居者様が好きな食べ物を買われる事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持しいつでも家族様と連絡が取れるようにしている入居者様もいらっしゃる。また定期的に友人と文通されている方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節によって掲示物を変更している。また玄関先と廊下に行事の写真を掲示し歩行時などに写真を見て話しの話題にしたりしている。共有スペースには湿度室温計を設置しており、快適に過ごしていただけるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関前には鉢花を飾り、テーブルにはあじさい等を生けていた。午前10時半から一時間、併設ショートステイの利用者も来て一緒に体操やレクリエーションを行っている。姿勢保持のために足置き台を置いたり、足を高くしたりして休んでいる利用者の様子もみられた。テーブルを一行に配置して、テレビの方向に合わせ、見たい方と見ない方で席順を決めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			お孫様の写真を居室に飾っている方や趣味の俳句を居室に掲示されている入居者様もお心地良く過ごしていただくように努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			生活用品やテレビ等を持ち込み過ごしている。希望者には午後からは1～2時間居室で横になって過ごすような時間を作っている。筆でしたためた自作の俳句の短冊等を飾っている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			廊下やトイレに手すりを設置し安全に移動できるように努めている。、また歩行時には必ず職員が付き添い安全面に配慮している。	